

桐朋学園オーケストラ×つくばリサイタルシリーズ

－共に描く未来の音楽－

つくばリサイタルシリーズ実行委員会

松浦海斗 大脇実紗 長田日和

加藤千尋 関珠暖 安田彩乃

1. つくばリサイタルシリーズ実行委員会について

つくばリサイタルシリーズ実行委員会は、つくば市においてプロの演奏家を招聘し、クラシックコンサートをプロデュースする筑波大学の学生団体である。つくばの学生および市民が経済的に大きな負担を伴わず、本物のクラシック音楽に触れる機会を提供することを目的としており、2021年で10周年を迎えた。通常プロの演奏を聴くためには、高額なチケットを購入する必要があるが、会場が東京などの大都市に限られていたりするため、クラシックに対して親しみにくい印象を抱く人も多い。その意識を変えるため、つくば市民にとって身近な場所で、手頃な価格でクラシックを楽しむことを目指した本シリーズの基本方針は、例年のアンケート結果を通じて来場された皆様からも高い評価を受けている。企業協賛やクラウドファンディングといった手段により資金を確保し、可能な限り低価格かつ高品質な演奏会を実現できている。

2. 事業の概要

事業名：第12回つくばリサイタルシリーズ・インカレ企画「桐朋学園オーケストラ×つくばリサイタルシリーズ ー共に描く未来の音楽ー」

実施日：2023年1月21日

場 所：つくばカピオホール

価 格：一般1,000円 学生無料(要申込)

出 演：桐朋学園オーケストラ

曲 目：モーツァルト/ディヴェルティメント K.136 ニ長調

江藤光紀/アドレッセンス (初演)

グリーグ/ホルベルク組曲

ビゼー/子供の遊び 小さな旦那様、小さな奥様

3. 当日の様子



リハーサル



受付



演奏①



演奏②



演奏③



客席



全体写真

4. 活動の達成度

4-1 演奏会の趣旨について

第12回つくばリサイタルシリーズは、今日もコロナ禍で様々な制約があるなかで、これからの時代を担ってゆく若者どうし、励まし合い、力を合わせ、共に乗り越えていきたい。そして、つくばのみなさんを明るく元気になりたい。という趣旨で企画された演奏会であった。

今回は、シリーズ初となる音大生による演奏会を筑波大学生で構成される委員がプロデュースすることから、分野の異なる大学生間の交流を積極的に行い、お互いの学生生活の知見を深める機会にしようと考えていた。さらには委員と出演者の交流にとどまらず、日本有数の実績を誇る桐朋学園オーケストラに所属する学生について、音楽専攻のない筑波大学の学生や、つくばの地域の人にも知っていただく機会が提供できると考えていた。

しかしながら、出演者側の都合もあり、交流する機会は限定的であったため、広報や当日に向けた準備が想定よりも不完全な状態での開催となってしまった。一方でコンミスから演奏会に向けたメッセージをいただいたり、当日出演者と委員間でコミュニケーションを取る機会があったりと、部分的ではあるが双方間のコンタクトを取ることができ、“これからの時代を担ってゆく若者どうし”で作り上げた演奏会が実現できたと感じる。

4-2 広報について

今回の演奏会は出演団体が大学生であり、多くの学生が使用している SNS の影響力が大きいが想定された。そのため、Twitter などでは過去の演奏会に来場していた方などに加え、桐朋学園関係者や出演者を中心にフォロワーを増やしたり、演奏会の内容をアピールしたりすることを心掛けた。これ以外にも、演奏会に興味のない地域の人にも情報が行き届くように Facebook のグループ機能を活用し、SNS 上の地域コミュニティにも投稿した。

さらにクラウドファンディング促進の広報活動も SNS 上で随時行い、目標金額を達成することができた。また、広報活動の一環として、茨城放送やラヂオつくばなどのメディア出演を積極的に行い、コンサートの内容や魅力を視聴者の方々に直接届けることができた。出演した際には、体験談を後日ブログにて報告し、SNS でも発信した。

前回のサロンシリーズの課題であった、「ポスター設置場所が限定的であること」を改善し、学内や県内のコミュニティセンターだけでなく、市役所・スーパー・運転免許専門店など、より多くの方に見ていただけるような場所にポスターを設置した。ポスターのデザインも好評であり、特に学内知名度の上昇を感じた。今回の演奏会は大学 OB の方にも演奏会に会場していただいたことから、大学関係者を想定した SNS 運用や幅広い地域への情報発信が集客に関してプラスにはたらいたとと言える。今後の課題としては、演奏会後の SNS の効果的な活用が挙げられる。演奏会が終了した後でも、SNS がある程度の頻度で更新されることで、興味のある層へと情報を届けることができる。次回の演奏会にも関心を持っていただくために、情報発信を途切れさせないことが重要だと考える。また、今回は Instagram の運用方法を模索した回でもあった。今回の演奏会では、ストーリー機能を使ってチケット販売やクラウドファンディングの情報発信を行ったが、次回は写真投稿がメインである Instagram の特性をうまく活用し、Instagram を利用している年齢層の集客に活かしていきたい。

4-3 運営について

今回用意したフライヤー6000部、ポスター100部は大量の余りが出ることなく、適当な部数を発行できた。プログラムについても400部を発行し、概ね適正だったと考えられる。その一方で、今回お招きした指揮の清水先生のお名前や、曲名に誤りがあるという重大なミスが発生してしまったため、今後こうしたミスを防いでいくために対策案を講じたい。ミスを防ぐためには、納期をはじめとしたスケジュール管理とその共有が必要だと考えている。最初に、到着日を決め、その3週間前を目安にパンフレット初稿の完成を目指したい。この期間設定の内訳としては、校正に1週間、印刷会社側の原稿チェックに1週間、発送から到着までに1週間を見ている。例えば、第12回のスケジュールからパンフレット作成を実施するという想定のもと考えると、本番の1月21日の前日、1月20日が到着日となり、その3週間前の12月30日の完成が目標となる。これまで述べてきたことから、パンフレット担当者は本番の1ヶ月前には決定し、その際に初稿の完成目標日を決定すると、見通しが立てやすく校正・修正の時間を確保できるのではないかと考えている。

当日は特に大きな混乱もなく、予定していた時刻の通りに進行できた。同一名義でチケットを大量購入された方が会場された際の混乱が懸念されたが、チケット担当委員の適切な準備と委員OBOGの協力のもと、スムーズに案内することができた。あえて気になった点を挙げるとすれば、カピオホールはホワイエと舞台裏が遠く、それぞれに配置されたスタッフが気軽に連携を取り合えないことである。それぞれにリーダーを設け、情報の集約と連絡

を効率良く行えるようにする準備が必要だ。

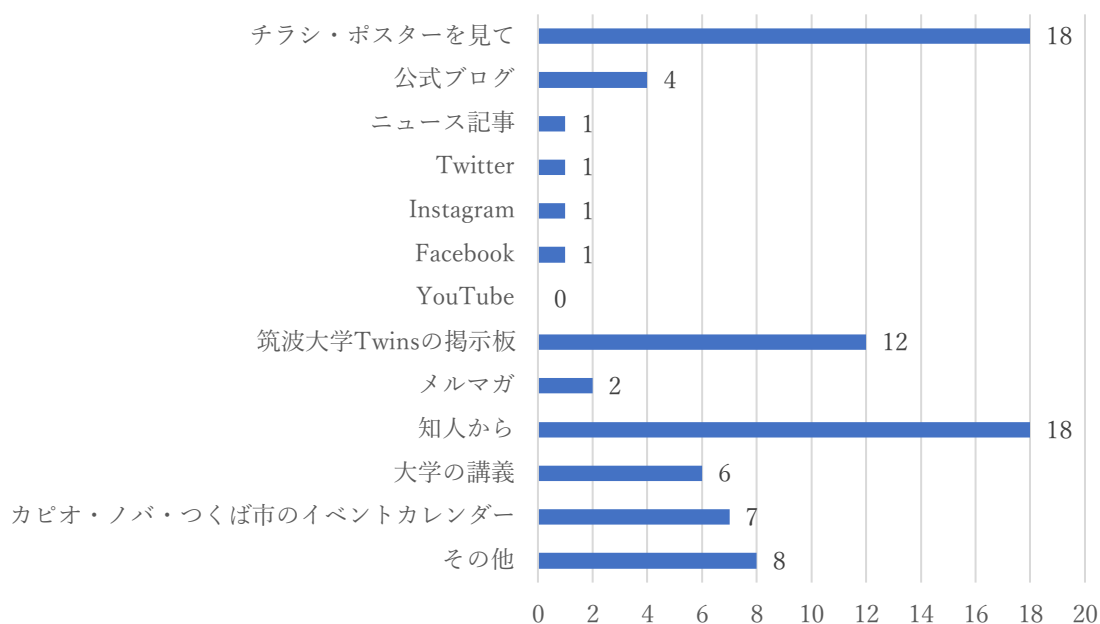
4-4 会計について

今回は、弦楽オーケストラを招いての演奏会となったため、客席を40席減らし、一般チケット¥1,000×131枚（teket101枚、紙チケット30枚）の売り上げとなった。今回の演奏会について、SNSによる広報活動が十分であったとは言い難いが、チケットは完売となった。その一因に同一名義によるチケットの大量購入が挙げられる。今回は終演まで問題は発生しなかったが、懸念は当日を迎えるまで消えなかったため、今後はチケットの購入制限などの対策を立てる必要があると思われる。また、チケット販売と並行してクラウドファンディングも行い、目標の¥70,000を上回る¥91,000の寄付をいただくことができた。

支援金については関彰商事株式会社、免キラ☆つくばベースより企業協賛金¥40,000を頂き、アイラブつくばまちづくり補助金として¥100,000、「世界を変えよう基金」から¥30,000の支援金を頂いた。そのため、支援金の総額は¥170,000となった。

4-5 アンケート分析

Q1.今回の演奏会をどのように知りましたか。(複数回答可) ※「その他」の方は、具体的な媒体を回答いただけますと幸いです。

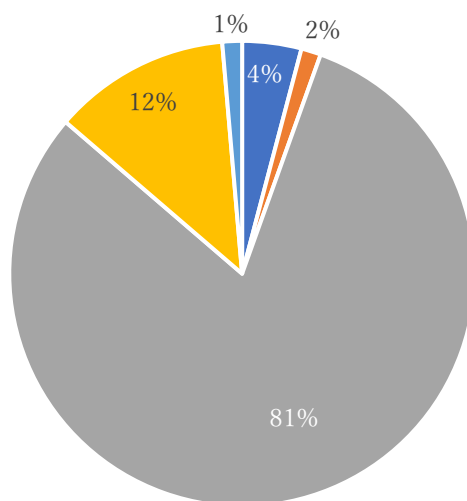


その他：江藤先生から(2)、学校行事(1)、学校からの案内(1)、桐朋学園の掲示板(1)、子どもの通っている学校を通して(1)、森の学園からのお知らせ(1)

チラシ・ポスターや大学の掲示板、知人からの紹介が主要な経緯であることが明らかになった。一方で、Twitter、Instagram、Facebook、YouTubeから演奏会を知ったという回答は

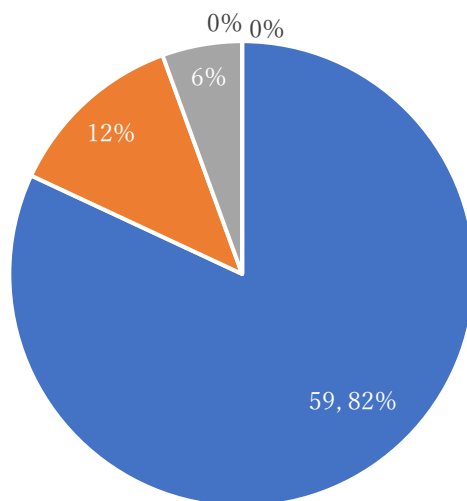
少なく、より効果的な SNS の運用方法について検討が必要であることが示唆された。

Q2-1.演奏会の長さはいかがでしたか。



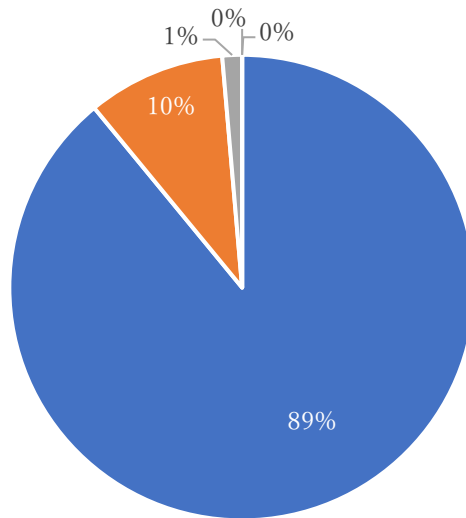
■ 長い ■ やや長い ■ ちょうど良い ■ やや短い ■ 短い

Q2-2.演奏会の進行はいかがでしたか。



■ 良い ■ やや良い ■ どちらともいえない ■ やや悪い ■ 悪い

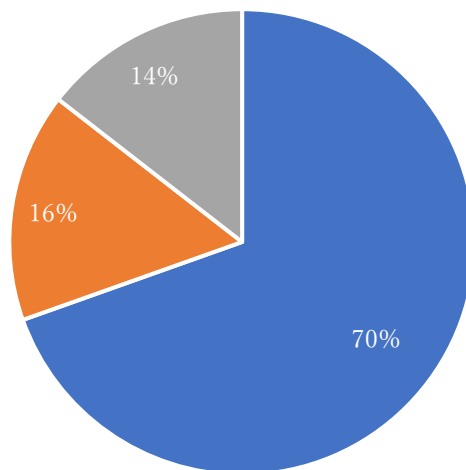
Q3.演奏会の全体的な満足度をお教えてください。



■ 満足 ■ やや満足 ■ どちらともいえない ■ やや不満 ■ 不満

Q2、3より、演奏会全体や長さ、進行に対する満足度は概ね高かったことが示された。これに関連して、感想では特に「演奏者との距離が近く感動した」という意見が多く見られ、演奏の迫力とコンサートホールの規模感も満足度の向上に繋がったと思われる。

Q4.これまでつくばリサイタルシリーズにご来場されたことはありますか。

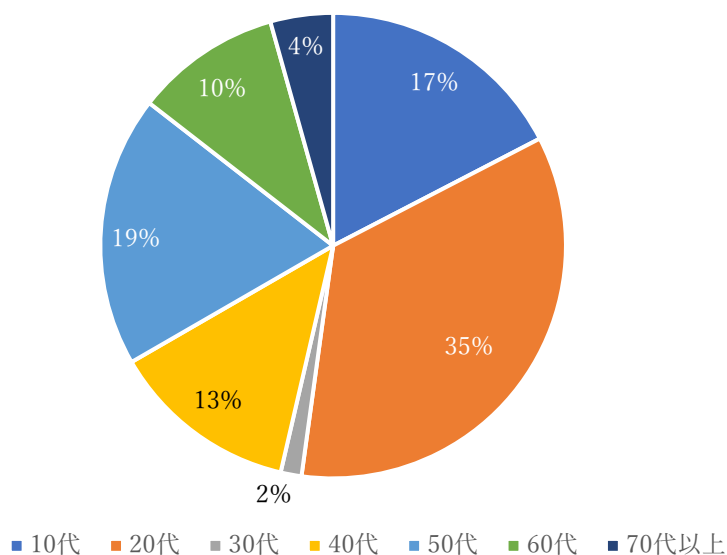


■ 初めて ■ 2回目 ■ 3回目以上

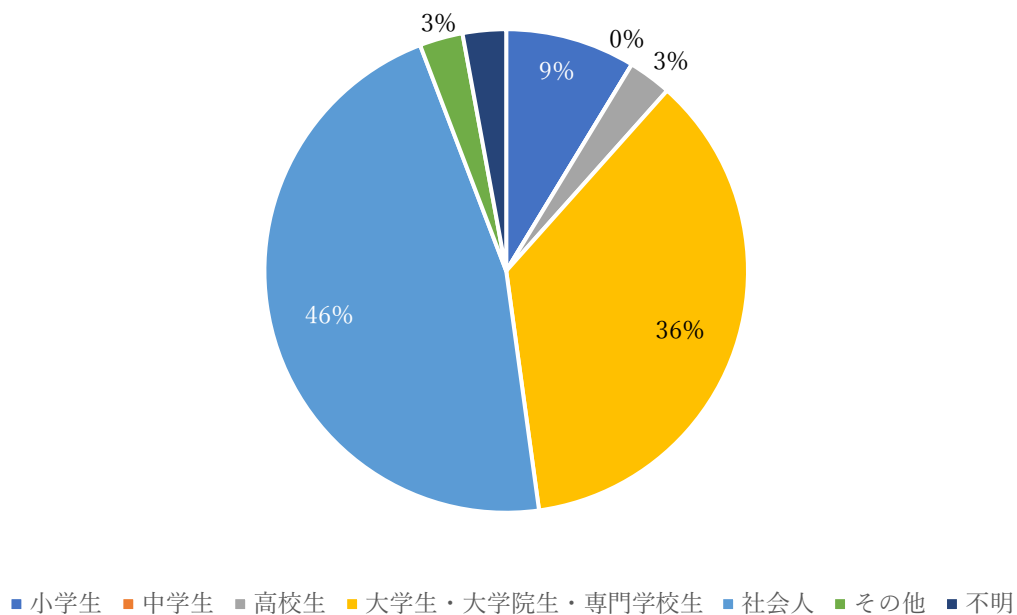
リサイタルシリーズに初めて来場された方が大多数であることから、演奏会の広報が効

果を上げたことが推察される。一方でリピーターの方も一定数いることが分かり、これまでの演奏会への満足度の高さがこのような結果へ反映されていると考えられる。

Q9.ご年齢



Q10.ご職業



Q9、10 より様々な方が来場されたことが示された。年齢層は20代が最も多く、その次に60代、10代が続いていた。職業に関しては、学生の中でも大学生・大学院生・専門学校

生が多いことが明らかになった。

5. 総評

全体を通して、第 12 回つくばリサイタルシリーズは過去最大級の来場者数を獲得でき、アンケートにみる満足度も過去最高レベルの演奏会となった。来場者からの改善要望もこれまでの演奏会の中では特に少ないものとなったが、当初の趣旨に合った演奏会は十分に達成できなかったほか、運営面では改善できる点がまだ多く見られた。広報体制の確立や、当日に向けた計画的な準備、収支安定に向けた渉外活動の拡充など、委員間の連携を高めて今後の委員会活動に活かしていければと考える。